

[1]

The colored leaves are vivid. This is the best season for going on a hike in the mountains now. It is fun to talk with others while on a hike. To have a good time, we should put safety before everything and remember to take enough water.

[1]

〔解説〕

標準的な和文英訳だが、主語などの省略、英語に直訳できない日本語などの箇所があるので、安易な英訳は注意しなければならない。

他にも様々な訳し方が考えられるが、以下にセンテンスごとの語句の訳例をして示しておく。

「紅葉が目に鮮やかだ」

*紅葉 : colored leaves

*目に鮮やか : vivid (「目」は訳出不要)

「山歩きを楽しむのに一番いい季節だ」

*山歩きを楽しむ : enjoy going on a hike in the mountains;
enjoy hiking in the mountains

「山を歩きながらの会話は楽しい」

*山を歩きながらの会話 : talk with(to) others while on a
hike

「会話」は名詞ではなく動詞で表現するのがよい。

*楽しい : fun, pleasant, enjoyable

「楽しむには、安全が一番、そして、水を忘れないことだ」

*安全が一番 = 安全を最優先する

put safety before everything

*水を忘れない : remember to take (enough) water

[II]

(ア) 2 (イ) 2 (ウ) 3 (エ) 3 (オ) 2
(カ) 3 (キ) 2 (ク) 1 (ケ) 1 (コ) 1

[II]

〔解説〕

(ア)

interpret O as C (O を C と理解する、解釈する) が受動態で使われているもの。他は意味的にも語法的にも不適切。

(イ)

The danger of this の this は直前の「多くのドライバーはクラクションをめったに鳴らさない」という内容を指すので、an emergency を入れれば、「この危険性は、仮に緊急事態が起きても～」という意味になり、文脈に当てはまる。

(ウ)

直前の On the other hand によって、クラクションを鳴らさないドライバーと鳴らすドライバーが対比されている。ここに without を入れれば、「ほとんど毎日クラクションを鳴らすドライバーもいる」となり、対比が成立する。

(エ)

the driver in front の後に that 節があることで、tell O that 節の型をとる動詞が入ることがわかるが、この中では remind しかない。

(オ)

in other words (言い換えれば) の直前を読めば、クラクションを鳴らすのは、「マナーの悪いドライバーの過ちを訂正する (指摘する)」ためであることがわかる。

(カ)

直後の文章を読めば判断できる。

(キ)

hazard = danger なので、文脈を読むまでもなく approach to any hazard であることはわかるはず。

(ク)

文脈から判断しても、「クラクションを鳴らす最善の時は、自分の位置を調節し終えた後」となるのは明らかである。

(ケ)

serve as ... (～として役立つ) が適切。

(コ)

筆者は、クラクションは必要に応じて使うべきだという考え方なので、and を入れることで、「自分の声と同じようにクラクションを使いなさい。そうすれば大きく間違えることはないでしょう」となり、文脈に合う。

【Ⅲ】

1.

象は、通常人間には低すぎて感知出来ないほどの周波数、約 20 ヘルツでコミュニケーションをとっている。

2.

- ① 空気によって伝達される音
- ② 地震波として地中を伝わる音

3.

(ア) 2 (イ) 3 (ウ) 3 (エ) 2

4.

彼女は、劇場の後部座席にいるプラントホッパーが、振動をより聞きやすくするためであろうが、足を 1、2 本上げる行動をとることに気づいた。つまり、残りの足にはより重い負荷がかかるが、それ故に振動に対する感度が高まるということなのである。

5.

- ① 空気伝導波に比べ、地震波は消散する速度が遅い。(23 字)
- ② 天候や気温の変化に乱されることがない。(20 字)
- ③ 密林の木々の葉によって消されることがない。(22 字)

6.

- ① 空気を媒体とする音波と地震波の伝達速度が異なるから。(26 字)
- ② 仲間との距離を測定できる。(13 字)

7.

両頬の部分に、脂肪の堆積物があること。

【Ⅲ】

【解説】

1

*frequency は「周波数」で、typically ～perceive が後置修飾している。「通常、人間の耳では感知できないほど低い」などと訳出すればよい。

*about twenty hertz は前の a frequency と同格。

2

直後を読めばすぐわかる問題。

3

解答参照

4

この下線部訳は、内容は理解しやすいが、日本語として答案にまとめるのに苦勞するであろう。

*observe ここでは「気づく」という意味。

*would ここでは「習性の will (～するものだ)」が時制の一致で過去形になったもの。「～だろう」とは訳さない。

*peanut gallery 注にもあるが、「映画館の後部座席」と訳しておけばよい。

*presumably for better hearing 比較的に訳出が難しい箇所だが、直訳すれば次のとおりになる。「おそらくはより良く聞こえるようにするためであろうが」

*コロンの後の the other feet と became には SV の関係があり、for better hearing を同格的に説明している。

構造は単純な文だが、以上のポイントに注意して、できる限り自然な日本語で訳出することが大切である。

5

直後の 1 文(They dissipate ...)をまとめればよい。

6

①
直前の 1 文(Air is the faster ...)をまとめる。

②

直後の文(The delay increases ...)以下、段落最終文までを要約すればよい。

7

including に続く、the fatty deposits in its cheeks を訳せばよい。

[IV]

1.
交渉という言葉には、極力避けるべき、対立をほのめかす不快な含みがあるのだ。
2.
日本の日常生活では、日用品をより安い価格で購入しようとして値引き交渉が行われることも殆どないし、主張を通すためにディベートのような議論が用いられるということさえも殆ど無いのである。
3.
はっきりとした意見の食い違いが無くなると、決定がなされるのである。
4.
他の人達が明快に発言してしまったので、発言することがなくなり、沈黙せざるを得なくなること。
5.
(a) 1 → (b) 4 → (c) 3 → (d) 2

[IV]

〔解説〕

- 1
*It = negotiation だが、訳すときは「交渉という言葉」としてもよい。
*disagreeable connotations は「不快な・不愉快な含み」
*to be avoided は文法上は直前の confrontation を修飾する形容詞用法。
- 2
*there is little experience of - は、直訳的に「～が経験されることはほとんどない」と訳してもよいが、experience にこだわらず、「～することはほとんどない」などと訳してもよい。
*to win points はかなり訳しづらいが、ここでの point は自分の主張や論点を意味するので、「自分の主張を通す」などの意識が必要。
*in a debating fashion も訳しづらい。fashion = way だが、debate は単なる議論というより、ディベートという競技なので、ここは「ディベート」のままでよい。
*arguments は論点、議論、主張。
*接続詞のorが使われているが、ここでは、絶対に「AまたはBはほとんどない」と訳してはならない。orの前にlittleという否定語が使われているので、「AもBもほとんどない」という訳し方が必要である。
- 3
ここは最も訳しやすい設問。
dissent (動) = disagree なので、直訳すれば「強い反対意見がなくなった時、決断がなされる」となる。直訳でもかまわないが、文脈を考慮し、前半部分を「はっきりとした意見の食い違いがなくなると」などと訳してもよい。
- 4
*この場合の this は後に続く内容を指す用法で、直訳すれば「次のこと」となる。該当箇所は、直後の1文(others may ...)である。
*put = say となり、matters = things となるので、この文は直訳すると、「他の人が物事を明快に述べてしまったかもしれないので、最善の策は黙っていることになる」。答案では文脈に沿った形で意識を試みるべきである。
- 5
結論から言えば解答の通りであるが、正解に到達するためのポイントは次の通り。
1 本文最終段落では、日米の交渉手法の相違が述べられているので、その続きの内容を含む1が適切。
4 選択肢1に含まれる“aristocratic disdain”を指すと考えられる“This disdain”で始まるので、4が適切である。
3 選択肢4では、日本人独特の東洋人としての節度について述べられており、3の内容はそれを発展させたものと考えられる。
2 選択肢3の後半では、東洋の紳士としての振る舞いが具体的に述べられているが、2の第1文(When circumstances become ...)は、選択肢3の最終文(If the necessity arises ...)に続く文として内容的にも適切である。

[V]

I don't think going outdoors is good for our health. Today, no place on earth is free from environmental pollution. Even if you go to the countryside, you will inevitably inhale polluted air or drink polluted water. Also, outdoor activities involve some risk to your health and life. You might not only get bitten and infected by wild animals, you might also get involved in a natural disaster. You might as well stay home. Therefore, I believe going outdoors is not necessarily good for our health. (86 words)

[V]

〔解説〕

作成における注意点

- ① “getting outdoors”は、スポーツやレジャーなど広い意味でアウトドア活動をするものと理解すれば良いだろう。
- ② 80 語前後であれば、段落数はひとつが普通。
- ③ 必ず、序論、本論、結論の構造をとること。
- ④ 理由が二つあれば、**First, Second**、または **Also** などの副詞を活用する。但し、その2つの理由が内容的に重複してはならない。解答例は理由を2つ挙げ、**Also** を利用している。
- ⑤ **Yes/No** どちらの見解で書いてもかまわない。英語で表現しやすいほうを選ぶべきである。
- ⑥ 基本的に文法・英文構成力を試す問題なので、文法的・構文的ミスは致命的。確実に使いこなせる単語、表現、構文のみを使うことが大切。